

東通村地域づくり講演会「人事を尽くして、さらに人事を尽くす」



講演される八島俊章氏

5月29日(土)、東通村体育館にて、東通村地域づくり講演会(講師:東北電力株式会社相談役 八島俊章氏)が開催されました。

本講演会は、住民ひとりひとりが主体となって地域を盛り立て、活力のある魅力的な東通村とする気運を高めることを目的に開催され、村内外より約300名が参加しました。

八島氏は昭和30年に東北大学工学部電気工学科を卒業後、東北電力株式会社へ入社し、同社の原子力部門を多く歩みましました。平成5年に社長へ就任、その後会長を経て現在は相談役を務め、また、社団法人東北経済連合会名誉会長、社団法人日本電気協会会長も務めています。



多くの方が受講されました

講演では、都心の雑踏の中で働くことよりも自然を相手にし、郷土の発展に貢献できる仕事を選んだこと、これまでの仕事の中で培ってきた「地域とともに歩むこと」の大切さ等についてお話がありました。

また、自分の仕事に誇りを持ち誠実であり続けることは、他者からの信頼を得るために最も大切なことであり、そのために努力し続けることこそが、講演のテーマでもある「人事を尽くす」ということであるとお話がありました。

本講演を通じて、参加者の方々ひとりひとりが、地域のために自分のできることをもう一度考えるきっかけになることを期待します。

サクラマス漁獲量増大に期待!

～平成22年度サクラマス幼魚(スマルト)放流式～

5月20日(木)、老部川内水面漁業協同組合(相内軍司組合長)のサクラマスふ化場で、村内各漁協をはじめ県・村関係者等60名出席のもと、サクラマス幼魚(スマルト)放流式が行われました。

この放流事業は、主に沿岸海域でのサクラマスの水揚げ増大を図ろうと、昭和60年のサクラマスふ化場完成とともに毎年実施しているものです。

今回のサクラマス幼魚(スマルト)は、平成20年7月から10月上旬にかけて老部川に遡上した親魚から採卵し、ふ化してからおよそ1年6ヶ月間当ふ化場で飼育した、平均尾叉長13.0センチ、平均体重22.5グラム程度の幼魚28,010尾が放流されました。

なお、今年の放流予定尾数は春放流幼魚76,513尾、春放流稚魚100,000尾、秋放流稚魚74,000尾の計250,513尾となります。

平成21年9月に完成した外周フェンス・ふ化場建屋の改修、さらに本年度は稚魚養魚池の増設工事も予定しており、今後もサクラマス幼魚や稚魚放流を継続的に増産し、沿岸海域での水揚げの増大と河川回帰の増大に向け、大いに期待がもてるものと思われます。



関係者による放流



放流されたサクラマス幼魚(当日の水中写真)